

平成26年度 病害虫防除技術情報 第2号

平成26年6月1日

大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

果樹カメムシ類の防除対策について

ナシやカンキツ類等の果樹に寄生する果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）は果実を吸汁し、被害を与える。また、果樹カメムシ類の発生量や園地での被害は、前年の越冬量やエサであるヒノキ毬果の量や気象条件に左右される。

本年は越冬量が比較的多いこと、5月の誘殺数が、多発した平成24年並みに多い地域があること、6月の降水量が平年並から少ないと予報されていることから、園外からの飛来に注意し、早期発見、防除に努めることが重要である。

1. 発生の状況

フェロモントラップによる調査の結果、東部地域、北部地域で誘殺数が多かった。

平成26年5月12日～5月16日の誘殺数

- | | |
|--|-------------------|
| ○国東市国東町： 377頭 （安岐町H16～23平均 52頭） | |
| ○速見郡日出町：18頭（平年 16頭） | ○玖珠郡九重町：5頭（平年 8頭） |
| ○由布市庄内町：49頭（平年 68頭） | ○宇佐市：106頭（平年 38頭） |
| ○佐伯市米水津：18頭（平年 4頭） | ○中津市：110頭（平年 10頭） |

2. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により異なるため、園内外をこまめに見回り、飛来が確認されたら一斉防除を実施する。
- (2) 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時から日没直後に行い、カメムシに直接薬剤がかかるようにする。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- (4) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>）

平成26年度カメムシ類誘殺数及び年度別越冬量

